

平成 25 年度 病害虫発生予察 特殊報 第 2 号

病害虫名： アシビロヘリカメムシ

Leptoglossus gonagra FABRICIUS

対 象： キュウリ

1. 病害虫情報の内容

アシビロヘリカメムシの発生と被害を都下で初めて確認した。

2. 発生経過

- (1) 平成 25 年 9 月 30 日、東京都大島町北部の露地キュウリ栽培圃場において本種の成虫 10 数頭の発生と複数の卵塊を確認した。吸汁被害によると思われる変形したキュウリ果実や、茎部での吸汁加害も認められ、一部の茎葉部で枯死などの被害を確認した。現在まで、発見圃場以外では見つかっていない。
- (2) 本種は奄美大島以南の南西諸島に分布するが、平成 16 年に長崎県においても発生が確認された。国外では東南アジア、アフリカ、北部オーストラリア、太平洋諸島などに分布する。沖縄県ではウリ科野菜およびカンキツ類の害虫として知られている。
- (3) 都下では、小笠原で過去の分布記録が残っており、近年発生は確認されていなかったが、平成 26 年 2 月に母島の 1 圃場で成虫が捕獲された。

3. 形態 (第 1～4 図; 成虫・幼虫・卵)

- (1) 成虫は体長 17～25mm、黒褐色で、下面に多数の橙色斑をもつ。前胸背は中央前方に三日月型をした橙色の帯があり、側角は鋭くとがる。後脚は長大で脛節が葉状に広がる。
- (2) 幼虫は 1～5 齢を経過するが、4 齢までは頭部、胴部が橙黄赤色、胸部、脚部などは黒褐色である。
- (3) 卵は黄褐色で寄生植物の茎部やツルに、直線上に 20 個前後の卵塊として産み付けられる。

4. 生態

- (1) 成虫、幼虫ともキュウリ、ニガウリ、ヘチマ、カボチャなどのウリ科植物のほか、カンキツ類、グアバ、パッションフルーツ、ピーチプラムなどの果樹類にも寄生し害虫として知られている。
- (2) 成虫は日中も良く活動する。人が近づくと大きな羽音を立てて飛び立つ。若齢期の幼虫は集団でいることが多い。
- (3) 南西諸島では 3～12 月まで数回の発生を繰り返し、成虫で集団越冬する。沖縄本島ではオキナワズメウリに成虫、幼虫が寄生する。

5. 被害

幼虫、成虫とも口器を刺して植物の汁液を吸収する。果実では吸汁部の内部がスポンジ状になって変色したり、変形したりして奇形果となることが多い(第 5 図)。

6. 防除対策および注意

- (1) 日中も活動するので成虫や卵を見つけたら除去する。また、防虫網を設置して成虫の侵入を防ぐ。
- (2) 圃場周辺のスズメウリなどウリ科の雑草などを除去する。また、収穫の終了したキュウリなどを放置しない。
- (3) 不明な点があれば病害虫防除所や普及センターに連絡する。



第 1 図 成虫 (右図では茎部に口器を刺して吸汁している)



第 2 図 1 齡幼虫



第 4 図 茎部に産み付けられた卵塊



第 3 図 若齡幼虫集団



第 5 図 キュウリ果実の吸汁被害